

土壌医検定試験の活用

JA ふくしま未来 営農経済部
営農経済企画課 稲村 典幸

○JA ふくしま未来が取り組む、みどりの食料システム戦略

JA ふくしま未来は、みどりの食料システム戦略に力を入れております。令和5年には『みどりの食料システム戦略フォーラム』を開催し、そこで『JAふくしま未来独自の「みどりの食料システム戦略」の実践を通じ、管内農業者の所得向上と持続可能な農業生産を実現していくこと』を目指す姿として目標に掲げました。

現在の管内農業生産は、慣行施肥による肥沃な土壌の増加とそれに伴う土壌病害等の発生、世界情勢に伴う肥料ほか生産資材の高騰による農業所得の圧迫といった課題があります。

そのような中、JAふくしま未来として土壌分析・診断・施肥設計までの一連の指導体制を構築し、適正施肥を実施することが必要と考え、令和7年2月に土壌分析センターを開所いたしました。

今後は土壌分析を通じて、管内の課題を解決し、農業生産の維持・拡大および農業所得の確保を目指してまいります。

○土壌医検定試験の活用

土壌分析センターの設立に当たり、課題となったのが現場で活躍する指導員のレベルアップ方法です。今までは外部の分析機関に土壌分析を依頼していたため、診断結果の解析や施肥設計書の作成などを外部機関に頼っていました。しかし、今後はJA独自の土壌分析センターが設立するにあたり、自分たちで土壌診断を行い、診断結果を解析し、施肥設計書を作成して生産者に説明することが何より大切になってきます。

喫緊の課題となった指導員のレベルアップ方法として着目したのが、土壌医検定試験になります。土壌医検定試験は1級～3級と個々にあった難易度を選べるほか、何よりありがたかったのは準会場を設置できる仕組みがあったことです。

管内から最寄りの会場は仙台でしたが、職員全員を案内することが難しく、移動費を含めると個々の費用負担の兼ね合いから一斉受験は難しいのが現状でした。しかし準会場を設置が可能なことを知り、受験者の移動負担が無くなるならと、一斉受験の企画・立案をさせていただきました。

土壌医検定事務局のお力添えをいただき、当JAでは各級合計で100名を超える形での受験となり、指導員共々、土壌の知識を身に着けることができ、強固な営農指導体制の確立に有意義だったと感じています。

○2級受験を通して

私は2級を受験させていただきました。参考書と過去問により勉強させていただきましたが大変苦勞をしての合格となりました。

農学系の大学を出たのち農業分野の仕事に携わっていたうえ、回答形式が選択問題ということもあり何とかなるだろうと思っていましたが、最初に過去問を解いたところ4割程度と悲惨な結果でした。土壌検定試験の問題は幅が広く、また選択肢の内容も非常に総合的な知識が求められる難問が多かったです。

自分の中の得意分野・苦手分野を改めて知ることができ、また土壌栄養のみならず、生育・病害・微生物・肥料等、広い分野を総合的に勉強できたことは良い機会となりました。改めて土壌は様々な要因により構成されているということを実感できたため、土壌分析に携わる際には多面的に診断結果を解析し、より分かりやすく現場へ届ける方法を今後も模索していきたい所存です。

○最後に

JAふくしま未来では「ワンランク上の営農指導」の下、生産者農業生産の維持・拡大および農業所得の確保を目指していきます。土壌医検定試験は今後の持続可能な農業を目指すうえで、必要な知識を学ぶ、非常に良い機会となりました。

準会場の設営に多大にご協力いただきました、土壌医検定事務局の皆様、大変ありがとうございました。

参考：JAふくしま未来 ホームページ <https://www.ja-f-mirai.or.jp/>

JAふくしま未来 Youtube [みらいろチャンネル - YouTube](#)

写真：土壌分析センター開所式の様子

